

てんじん

第49号

2012年10月発行

目次

医療安全管理室より「5S活動を進めるにあたっての謝罪とお願い」	1
ニュージーランド遠征記	2
看護部だより「はじめまして、新生児集中ケア認定看護師です」	
重症心身障害病棟「秋のふれあい大運動会」	3
アラカルト「乳癌検診と治療」	
乳癌検診啓発キャンペーン・ピンクリボン運動について	
患者数	4
平成24年度 第二回重症心身障害児(者)関係機関連絡会を開催して	
新任医師紹介	
病院外周の環境美化に取り組みました	5
季節のレシピ「れんこん」	
地域医療連携室より「スポーツ・膝疾患治療センター開設5周年記念講演会」	6
外来医師担当表	7

発行：独立行政法人 甲府病院 広報委員会
 国立病院機構
 発行責任者：長沼博文
 住所：〒400-8533 山梨県甲府市天神町 11-35
 電話：055-253-6131
 ファックス：055-251-5597
 ホームページ：<http://www.kofu-hospital.jp/>
 Eメール：kofu@kofu.hosp.go.jp
 携帯サイト用QRコード



「世界糖尿病デー」

写真は昨年の11/14に撮影した武田信玄公像です。11/14は国連で「世界糖尿病デー」と定められており、日本だけでなく世界各地の名所が青色にライトアップされます。糖尿病は一般的に死に至る病気との認識は薄いですが、世界で年間380万人以上が糖尿病の引き起こす合併症などが原因で死亡しており、10秒に1人が糖尿病に関連する病で命を落としています。

山梨では今年も11/14に武田信玄公像が青色にライトアップされます。これを機に皆様の糖尿病への関心が深まれば、幸いです。

(写真・文：薬剤科 薬剤師 寺田芳弘)



独立行政法人 国立病院機構 **甲府病院** の理念
 National Hospital Organization Kofu National Hospital

理念

私たちは、良質な医療の提供を通して、患者さんの健康を支え、地域社会に貢献します

基本方針

- 丁寧な説明に努めます
- 自己研鑽に励みます
- 職員同士協力し合います

私たち職員は、理念を実現するため最善を尽くします
 病院は、職員の働きやすい環境を積極的に提供します

医療安全管理室より

「5S活動を進めるにあたっての謝罪とお願い」

医療安全管理室室長（副院長） 久富 幹則

昨年の冬だったと思いますが、今年の医療安全室の目標は何で行こうか？ と大宮師長と相談しておりました。あまり熟慮もせずに、春の院内講演が5Sの話なんだから5Sでいいじゃないの？ 5Sなるものを良く理解していないのに（大宮師長は理解していた？←理解していましたよ～！：大宮談）何となく5Sが今年の目標に決定いたしました。そして今年度に入りしばらくは5Sのことも忘れておりましたが、5月25日に磐田市立総合病院の事務部医事課の伊藤さんの講演を聞いて唖然といたしました。なぜかと言いますと第一におそらく医療安全室の取り組みではうまくいかない、病院としての取り組みにしなければ成功するわけがない。第二に今年の目標で来年は別なんてことはあり得ない、5Sを始めたら終わりがありません、など熟慮せずに5Sを今年の活動目標にしたことを反省もいたしました。やむなく幹部会議等で“5S活動を病院として今年の目標ではなく今後とも病院の目標として取り組んでほしい”と提案し何とかスタート、現在に至っております。

5Sとは5項目のローマ字での頭文字がいずれもSになっていることに由来する言葉で、製造業・サービス業などの職場環境の維持改善のスローガンであります。すなわち5Sとは、

「整理 (Seiri)」

⇒いらぬものを捨てる

「整頓 (Seiton)」

⇒決められたものを決められた場所に置き、いつでも取り出せる状態にしておく

「清掃 (seisou)」

⇒常に清掃して、職場を清潔に保つ

「清潔 (seiketsu)」

⇒整理・整頓・清掃を維持する

「躰 (shitsuke)」

⇒決められたルール・手順を正しく守る習慣をつける

以上の5つであり、日本で生まれた概念であります。一般の企業で始まりましたが、現在では多くの病院で取り組まれており、その成果がたくさん報告されています。

病院での5S活動の成果といたしましては、医療安全の向上・患者満足度の向上・仕事の無駄の減少・在庫管理の適正化などが期待されています。それはともかく整理・整頓された働きやすい清潔な職場環境を整えることは、患者さんにはもちろんですが、働く職員にとりましても雑然としているよりは何となく爽やかに明るい気持ちになるとは思います。みなさんはいかがでしょう？



以上のような経緯で始まった当院の5S活動ですが、成功に結びつけるポイントは、まず職員全員が5S活動に取り組む意識を高めることと考えております。皆さんはいかがでしょう、みんなで安全で働きやすい職場を目指してみませんか！



5Sのやりがいがある副院長室をご覧ください。これがどれ位美しくなるか、乞うご期待！



「ニュージーランド遠征記」



外科系診療部長 萩野 哲男

山梨学院大学ラグビー部のニュージーランド遠征合宿に平成 24 年 8 月 27 日から 11 日間の日程で私と落合聡司センター長が帯同しました。ニュージーランドは南半球にあるため日本とは季節が逆で、日本が夏の暑い時期は冬であり、ウインドブレーカーとセーターを持参しての参加となりました。

ニュージーランドは先住民のマオリ民族のほか主にイギリスをはじめとしたヨーロッパからの移民の国で、その国技はラグビーです。ラグビー世界ランキングでは 1 位で、昨年のワールドカップではニュージーランドのナショナルチームであるオールブラックスが優勝しています。町のいたるところにラグビー場があり、今回の練習場もラグビー場が 10 面の広さのグラウンドで、スケールの違いに驚きました。日本における野球、サッカー以上に国民の人気スポーツで、テレビをつけると一日中ラグビーの放送をしています。

山梨県日川高校を卒業後、大学、社会人ラグビーで活躍した吉田浩二監督が率いる山梨学院大学ラグビー部は、総勢 100 人ほどの学生からなり、関東



吉田浩二監督と練習グラウンドで

大学リーグに所属し、現在一部昇格を目指しています。落合聡司センター長と私は 2006 年から同大学ラグビー部のチームドクターを引き受け、選手の怪我の治療や健康管理、公式戦の帯同など医学的サポートを行ってきました。



サバースU 21 との試合

今回の遠征先はニュージーランドの北島のオークランド郊外で、ニュージーランド人コーチ

指導による練習のほか、現地のクラブチームとの試合を計 9 試合行い、3 勝 6 敗の成績でした。学生たちは本場ニュージーランドラグビーに触れ、大変



救急車で搬送。左はニュージーランドの救急隊員

に大きな収穫となったことでしょう。また当院で膝靭帯の手術を行った学生が試合に出場し活躍し



救急車内で

ている姿を見て、改めて当センターの重要性を認識したところでした。しかし、相手の体格とパワーに圧倒され怪我人も少なくなく、救急車で病院に搬送した学生もありました。

今回の遠征により国立病院機構甲府病院スポーツ・膝疾患治療センターに携わる医師として、スポーツ選手へのお手伝いできたことを光栄に思います。今後もアスリートのみでなく、地域スポーツ選手をはじめとした全ての方々のお助けになるよう邁進していきます。最後に留守中に多くの方々にご迷惑をかけたこと、紙面を借りてお詫び申し上げます。

お知らせ

7人制ラグビーは 2016 年のリオデジャネイロ五輪で正式種目として採用され、また 2019 年に開催予定の第 9 回ラグビーワールドカップは日本で開催することが決定しています。



ラグビー日本代表のジャージの胸を飾る桜のエンブレム。このエンブレムには「正々堂々と戦い、敗れるときには美しく散れ」という意味が込められているそうです。

看護部 だより

「はじめまして、新生児集中ケア認定看護師です」

高度周産期医療センター 副看護師長 荻野 央子

甲府病院の2階病棟は高度周産期医療センターとして、産科・婦人科・小児科、そしてNICU（新生児集中治療室）・GCU（新生児治療回復室）があり、妊娠から出産、育児まで一貫した医療の提供をしています。NICU・GCUでは、新生児を専門とする医師・NICU看護を長く経験したスタッフと、日々新しく生まれてくる子供たちに向き合っています。

新生児集中ケア認定看護師とは、なんらかの理由により早産となった赤ちゃんや、生まれながらに病気を抱えている赤ちゃんとその家族に対して、産まれた直後の病状・環境が大きく変化する急性期の集中ケアを行う看護師です。

生まれたばかりの赤ちゃんも、色々な形で私達看護

師にサインを送ってくれていきます。そのサインを見逃すことがないように、子供の変化に少しでも

早く気づき、正しく判断し、反応を確かめ、子供に合わせたケアを実践できるように心がけています。

ご両親は、子供の誕生と同時に難しい選択を迫られ



る場面もあります。ご両親の思いに寄り添い、傾聴し、



意思決定の助けとなるような関わりができることも大切にしています。治療が優先される環境ではあり

ますが、子供が誕生した喜びをご両親が感じられるよう、可能な範囲で子供とご両親での家族の時間が持てるように調整を行っています。

子供は治療を受けながらも、日々成長していきます。

子供の成長・発達を助ける環境作りも大切にしています。日々成長していく変化をご

両親と一緒に感じ、その変化に癒され、力をもらい日々ケアを行っています。



重症心身障害病棟 「秋のふれあい大運動会」



主任児童指導員 和田 聡

平成24年10月3日（水）に重症心身障害児（者）病棟のふれあい大運動会が実施されました。今回は病棟患者さん全員の方が秋の運動会にふれることが出来るように各病棟での開催といたしました。各病棟で工夫された競技が実施され、盛大に盛り上がった運動会となりました。ご協力を頂いたボランティアの皆様、職員の皆様、ありがとうございました。

運動会での1コマ（パラシュート）





アラカルト

「乳癌検診と治療」



外科医師 高橋 ひふみ

乳癌は決してめずらしい病気ではなく、日本人の女性の乳癌罹患率は大腸がんに次いで2番目に高くなっています。また乳癌の罹患率は30歳代から増加をはじめ、40歳から50歳ごろにピークを迎え、他の癌と比べ若いころから発症することがわかっています。

乳癌の多くは痛みなどの症状がありません。乳房にしこりがあったとしても乳癌という病気を知らなければ、そのまま気づかないうちに進行してしまいます。癌が大きくなると、腋の下や首のあたりにリンパ節が腫れてきます。さらに大きくなった癌は皮膚を破って潰瘍をつくり、出血するようになります。また、腫れたリンパ節が腕などのむくみを起こすようになります。また、肝臓や肺、骨、脳などにも転移します。このような状態になると、もう手術だけで癌を取りきることはできません。抗がん剤などの薬物療法や放射線療法を併用しながら治療を行っていきます。近年、乳癌に有効な多くの抗がん剤や分子標的治療薬が使用できるようになりました。昔なら何も治療ができなかったほど進行してしまっただ癌が著しく小さくなり、病気になる前とほぼ変わらない生活ができるようになる患者さんもいます。しかし、より負担の少ない治療を行うためには早期に癌を発見するにこしたことはありません。

以前の乳癌の手術は、乳腺はすべて切除し、乳房の後ろにある胸の筋肉も一緒に切除していたため、術後は肋骨が皮膚の下に浮いて見えるようになりました。患者さんにとっては手術の大変さだけでなく精神的にも大きな負担がありました。また腋の下のリンパ節を取る手術（郭清）により腕がむくんだり動かしにくくなるなどの後遺症が残ることが珍しくありませんでした。現在多く行われるようになった乳房温存療法は乳房を部分的に切除するにとどめ、腋の下のリンパ節はサンプリング

（センチネルリンパ節生検）を行って転移がなければ郭清の手術を追加せずに終わらせることができます。傷の位置もできるだけ目立たないようにする配慮が行われるようになってきています。最近の乳癌検診は、マンモグラフィーや超音波検査を併用しているため、触ってもしこりがわからない段階の癌も見つかることがあり、乳房温存治療を可能とするために役立っています。乳癌にかかりやすい年代の方の多くは、仕事や家庭の事情などで忙しくなかなか受診する機会がないといわれますが、症状がない方でも乳癌検診を受けるようおすすめします。

当院では乳腺のしこりなどの自覚症状のある方や、市町村の検診や人間ドックで異常を指摘された方に対する精密検査、治療を行っております。超音波検査、マンモグラフィー検査は初診当日に行い、必要があれば続いて細胞診や針生検を追加しています。手術のための入院や化学療法、放射線治療などについては患者さんと相談しながらできるだけ早く開始できるようにスケジュールを立てていきます。気になる症状がありましたらご相談ください。

乳癌検診啓発キャンペーン・ピンクリボン運動について



ピンクリボン運動とは、乳がんの正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を推進すること、などを目的として行われる世界規模の啓発キャンペーンであり、左図のようなピンク色のリボンをシンボルとしています。

1980年代にアメリカで始まったこの運動は、2000年代に日本でも広まり、毎年10月には東京タワーのピンクライトアップなど、さまざまな啓発活動が行われています。

平成 24 年度一日平均患者数

入院

※ 8月分及び年間累計は8月末日現在（小数点以下第2位は四捨五入）

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一般	81.1	82.6	90.4	95.6	93.9	87.3							88.5
重心	119.2	119.9	120.1	120.0	119.9	122.5							120.2
計	200.3	202.5	210.5	215.6	213.8	209.8							208.8

外来

※ 8月分及び年間累計は8月末日現在（小数点以下第2位は四捨五入）

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	249.6	266.1	254.3	274.7	250.0	269.7							260.5

平成24年度 第二回重症心身障害児(者)関係機関連絡会を開催して

療育指導室長 山田 宗伸

9月7日に当院大会議室において、平成24年度第二回重症心身障害児(者)関係機関連絡会を開催しました。本連絡会は、山梨県内の重症心身障害児(者)の入所や通所に係る事業所、児童相談所等が年4回定期的に集まり、重症心身障害児(者)に対する支援について検討しています。今回は、平成24年4月の障害者自立支援法や児童福祉法の改正で、通所支援事業や療養介護事業(18歳以上の入所)に係る手続きが市町村に移管されたことや、相談支援の充実が求められるようになったことがきっかけになり、県内の市町村障害福祉担当職員、圏域マネージャー、コーディネーターなど地域支援に係る方々を含め、院内外から約60名が参加しました。

プログラムは、当院が当番施設ということもあり、当院小児科の加賀医師に重症心身障害児(者)の臨床像や、濃厚な医療的ケアを要するいわゆる「超重症児(者)」に必要な医療的ケア、合併症等を中心に講演していただきました。

続く事例報告・意見交換のセッションでは、「重症心身障害児(者)の地域の支援体制」をテーマに2施設から事例を報告していただきました。在宅での生活を望まれる方々への支援として共通する主な点は、「関

係者会議(ケア会議)」の実施により生活のイメージや課題を関係機関が共有し、地域の社会資源と密接につながりをもつことです。しかし、山梨県内に限ったことではありませんが、地域移行をしたが緊急時の受け入れ先がなく再び施設入所を選択したケースなど医療面での課題も挙げられ、医療、福祉両面から包括的に支援できる地域支援体制が急務と考えられました。

本連絡会を振り返り、当院は「ポストNICU」(NICU病床等における長期入院児を受け入れて、医療と療育を行う後方病床)としての役割に加えて、通所支援、医療型短期入所といった在宅支援を通じて、重症心身障害児(者)の日常生活及び社会生活を総合的に支援できるように取り組んでいく必要性を再認識しました。

最後になりますが、本連絡会開催にあたり、院内外の方々に多大なるご協力をいただきましたことに心からお礼申し上げます。



意見交換の様子



講演を行う加賀医師



和田主任児童指導員

新任医師紹介



小児科医師

わたなべ
渡部 あずさ

平成24年10月1日に着任しました。子供たち、そしてお母さんたちの気持ちに寄り添った医療を提供できるよう、がんばっていきたく思います。よろしくお願いいたします。

病院外周の環境美化に取り組みました

去る7月23日・24日の2日間、当院では職員による病院外周の草取り・清掃等の環境美化活動を行いました。

来院者ばかりでなく、通りかかる周辺の皆様にも心地よさを提供できるよう、これからもこうした取り組みを続けていきたいと思っております。



(写真：当院西側外周。生垣の草取りおよび歩道の清掃を行いました)



季節のレシピ

《れんこん》



栄養管理室長 矢吹 達雄

れんこんの旬は晩秋から冬にかけてです。夏に晴天が続き、気温が高かった年ほど豊作になります。穴が多数空いていることから「先を見通す」ことに通じ、縁起物として、おせち料理に欠かせない野菜のひとつです。栄養成分では、ビタミンCが豊富です。他に食物繊維、ビタミンB1、B12、E、鉄分、カルシウム等が含まれています。ビタミンCは熱には弱いのですが、れんこんはでんぷん質が多い為に、相当量のビタミンCが残ります。れんこんを選ぶポイントは、節と節の間が長く、太くて真っ直ぐで、外皮が淡黄色で艶があり、持った時に重みがある物が水分を保っています。切つてある場合は、肉厚で穴が小さく、内側が白い物が良いでしょう。

筑前煮

★ 材料 [4人分]

鶏もも肉 300g れんこん 100g 牛蒡 100g 人参 100g 里芋 100g 蒟蒻 1枚
絹さや 4枚 干し椎茸 4枚 サラダ油 (大さじ2) だし汁 (300cc) 酒 (大さじ3)
砂糖 (大さじ3) 醤油 (大さじ4) 味醂 (大さじ1) 塩 (適宜) 酢 (適宜)



● 作り方

- ① 干し椎茸は、ぬるま湯で戻し、軸を切って4等分にする。れんこんは皮を剥き太ければ4つ割にして乱切りにし、酢水に晒す。里芋は皮を剥き、大きさにより2～4等分に切り、塩を振って手でよく揉んでヌメリを洗い流す。牛蒡は皮をこそげ取り、斜め回し切りにし、酢水に晒す。こんにゃくはスプーンで一口大にちぎり、塩で揉み、水で洗い流す。絹さやは筋を取って塩茹でにし、水に晒してから斜め半分に切る。人参は皮を剥き、乱切りにする。鶏肉は余分な脂を取り除き、一口大に切る。

- ② 鍋にサラダ油を入れ熱し、鶏肉を皮を下にして入れ中火で炒める。
- ③ 鶏肉の表面が白くなったら、れんこん、牛蒡、人参、蒟蒻の順に入れて炒める。
- ④ 全体に油が馴染むくらい炒めたら、里芋、椎茸、だし汁を加え沸騰させ、灰汁と脂をすくい取る。
- ⑤ 砂糖、酒を加え、蓋をして5分位煮たら、醤油を加え揺すりながら味をなじませる。
- ⑥ 煮汁がなくなったら、味醂を加え強火でサッと煮て照りを出す。
- ⑦ 器に盛り、絹さやを飾る。出来上がり。

[1人分] エネルギー 246kcal 蛋白質 16.7g 脂質 9.8g 塩分 2.2g 調理時間 約45分

地域医療連携室より

スポーツ・膝疾患治療センター開設5周年記念講演

地域医療連携係長 (経営企画室長) 薄根 芳彦

平成24年10月20日(土)にアピオ甲府(山梨県中巨摩郡昭和町西条3600)にて、スポーツ・膝疾患治療センター開設5周年記念講演会を開催いたします。

2007年6月に国立病院機構甲府病院の整形外科にスポーツ・膝(ひざ)疾患治療センターを開設し、今年で5周年を迎えます。スポーツ・膝疾患治療センターは、スポーツが原因の傷害(ケガ)、特に膝関節疾患の治療を積極的に行うことを目的として設置され、多くのアスリートや膝疾患の患者様のご理解をいただき、順調に発展してまいりました。近年、国民のスポーツに関する意識が高まり、スポーツの実践は健康の増進に有効とされ、スポーツを通じての健康づくりやスポーツ医療は将来さらに大きく展開していくことが予想されます。スポーツ・膝疾患治療センターでは、アスリートのスポーツ傷害の診療をはじめとして、一般の方々の膝疾患に対する治療も積極的に行っています。また、膝の内視鏡を駆使した関節鏡手術に関わる調査・研究を進め、常に最新の医療が提供できるよう努力しております。

5周年記念講演のプログラムはポスターのとおりですが、山梨県内のみならず、国内外のより多くの皆様方にスポーツ・膝疾患治療センターの活動をご理解いただきますよう、事前申込み不要(参加費:無料)としておりますので、多数のご参加をよろしく願いいたします。

スポーツ・膝疾患治療センター 開設5周年記念講演会

第2回 山梨スポーツ・膝疾患治療研究会

日時: 24年10月20日(土) 15:30-17:50
会場: アピオ甲府 山梨県中巨摩郡昭和町西条3600
参加費: 無料 (事前申し込み不要)

医師、理学療法士などの医療従事者以外でも、中高大学・社会人チームの選手をはじめ、興味のある方はどなたでも参加可能です。

司会: YBS山梨放送 森井 康宏 アナウンサー
開会挨拶: 社会保険総合病院 整形外科部長 藤原 善孝 先生
座長: 国立病院機構甲府病院 外科部長 藤原 和男 先生

《特別講演》
『障害(生涯)闘病家 風間深志氏
～「運動歴の10年」世界運動キャンペーン・世界の外傷治療事情～』
風間 深志 氏
冒険家/NPO法人地球元氣(元氣)財団代表(山梨県出身)、「運動歴の10年」世界運動大使

《講演》
『スポーツ・膝疾患治療の最新動向』
落合 聡司 先生
国立病院機構甲府病院 スポーツ・膝疾患治療センター長

閉会挨拶: 国立病院機構甲府病院 総院長 長沼 博文 先生

山梨県立総合医療センター(山梨県立総合医療センター) 〒360-0001 山梨県中巨摩郡昭和町西条3600
TEL: 055-240-6223 FAX: 055-240-6225

主催: 国立病院機構甲府病院 スポーツ・膝疾患治療センター
後援: 山梨大学 医学部 整形外科科学教室

甲府病院
National Hospital Organization Kofu National Hospital

◎地域医療連携室・お問合せ先

連携室直通 電話 055-240-6223
FAX 055-240-6225

業務時間 平日 午前8:30～午後5:00
担当: 中澤 相山 杉本

外来医師担当表

平成24年10月1日現在

…女性医師等

			月	火	水	木	金	
一階診察室	外科	診察室 1	鈴木	浅川	角田	鈴木	牧	
		診察室 2	浅川	角田	高橋	高橋	鈴木	
		化学療法 (五階)	診察室 1		角田	鈴木		
			診察室 2			浅川		
	内科	診察室 3	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	
		診察室 4	黒澤	黒澤	黒澤		黒澤	
		診察室 5	川口	古屋	古屋	中尾	太田	
	呼吸器内科	診察室 4				樋田		
	神経内科	診察室 5 (午後)					一瀬	
	循環器内科	診察室 6	薬袋	中村		薬袋	薬袋	
皮膚科	診察室 9 (共用)		松澤(美)					
脳神経外科	診察室 8	長沼	長沼	長沼	長沼	大学医師		
消化器内科	診察室 9	稲岡						
	診察室 10 (共用)							
整形外科 (スポーツ・膝疾患治療センター)	1	萩野		装具外来	萩野	萩野		
	2		高山	高山	渡邊			
	3	落合	落合		落合			
	4	千賀		千賀		千賀		
	5	装具外来						
検査室	内視鏡	午前	角田	高橋	大野 田中	北橋	浅川	
		午後			大野 渡辺			
	エコー	午前			腹部 検査科 心臓 薬袋		腹部 検査科	
		午後				心臓 薬袋		
小児科	1	内田	内田	藤岡	久富	久富		
	専門外来 1 (午後)	神経 藤岡	神経 中村	神経 神谷	第1・3週 摂食 小野	代謝 内田		
	専門外来 2 (午後)	フォローアップ 久富	フォローアップ 久富					
産婦人科	1	滝澤	雨宮	高木	雨宮	滝澤		
	2 (予約のみ)	雨宮	高木	第1・3週 雨宮 第2・4・5週 滝澤	滝澤	高木		
	3	妊健 助産外来			妊健 助産外来			
眼科		予約のみ 10時迄 地場	地場	地場		地場		
泌尿器科		奇数週・予約のみ 大学医師						
耳鼻咽喉科					矢崎			

- 受付時間 初診/午前8時30分～午前11時00分 再診/午前8時20分～午前11時00分(再診で予約を取られている方は予約時間まで)
- 予防接種(小児科) 毎週木曜日(完全予約制)
- 毎月第4金曜日 糖尿病教室 黒澤医師
- 乳児健診 毎週火・金曜日(完全予約制)
- 人間ドック 毎週火・木曜日 脳ドック 毎週月・火曜日午後

特殊外来ご案内

・「乳腺外来」については、毎週木曜日の午前中に高橋医師(女性)が診察します。検査についても女性技師が行っています。乳房にしこりなどの異常を感じたら、すぐに受診されることをお勧めします。

・「物忘れ外来」については、脳神経外科で行っています。ご家族が「忘れることが多い」と気づいたら、受診されることをお勧めします。

◆看護職員募集案内◆

助産師・看護師・看護助手採用試験は随時行っています。
 申し込み方法 *下記の電話番号に(土日休日以外)に直接ご連絡下さい。
 連絡先 国立病院機構甲府病院 庶務係長
 TEL:055-253-6131 FAX:055-251-5579

編集後記
 ◆甲府に来て5ヶ月が経ち、ようやく落ち着いた日々を過ごせるようになってきました。
 さて、甲府にはいろいろな方言がありますね。4月に来たばかりのときは「じゃんこ」という言葉の意味が分かりませんでした。若くきれいなお母さんが「じゃんこして」と子供に言うのを聞いて、何のことだろうとびっくりしたものです。
 今ではわたしもすっかり慣れて自分からもよく使っています。これからも甲府の言葉を楽しみつつ業務に励みたいです。
 (ちなみに「じゃんこ」とは座ると言う意味です。放射線科S)